

英語の過去完了形との比較から見るフランス語の大過去形
—語りのテキストの分析を中心に—

宮脇 玲奈

0. はじめに

◇ 本発表の目的

テキストにおけるフランス語の大過去形と英語の過去完了形を比較することで、フランス語の大過去形の機能を明らかにする。

(以下、英語の過去完了形→過去完了形 フランス語の大過去形→大過去形)

◇ 出発点

・渡邊 (2018)

他のロマンス諸語と比較するとフランス語の大過去形の使用頻度が他の言語と比べて特に高いことを示している。

→「説明の大過去形」¹と「物語における連鎖的使用」²というフランス語特有の二つの用法に起因する。

?大過去形を連続して使用することを支える大過去形の本質的な機能は何か。

◇ コーパス : Michelle Obama の *Becoming* (2018) と仏語版の *Devenir* (2018)

・分析対象 : 主にフランス語の大過去形が連続して現れるテキスト

→テキスト構造の観点から中心場面と当該時制の関係を、英語原文と仏語版で比較することで大過去形の本質的な機能を明らかにする。

◇ 本発表の構成

1章 テキスト構造と時制の関係について

2章 テキスト構造と中心場面の関係について

3章 仏語版と英語原文のテキストと比較

1. テキスト構造と時制

● Weinrich (1982)

テキスト性 : テキストは時制や冠詞などの要素が連関することで秩序だった構造を持ち、その一定の秩序。

¹ 渡邊 (2018) によれば、次のような例のことを指す。大過去形 *était rentré* は単純過去形 *éclata* の理由になっている。
(9) *Quand Gervaise s'éveilla, vers cinq heures, raidie, les reins brisés, elle éclata en sanglots. Lantier n'était pas rentré.* (E. Zola, *L'Assomoir*, p.2 cité par 渡邊)

² 渡邊 (2018) によれば、「語りのある部分で直説法大過去形が基調をなしていて、連鎖的に使われる」用法のことを指す。

→Weinrich (1982)はテキスト構造の分析に、時制を選んだ理由を下記のように述べている。

一言語の時制形式は、その言語の記号総量の中で非常に小さな部分であり、その量はまた、適切な時制理論が設けている前提のもとでは、その全体を完全に見わたせるほどのものである。これらの少数の記号は、しかしテキスト中では高い頻度で現れるのであるから、甚だ好都合な観察条件を与えてくれる。つまり言語のこの分野では、移行という概念、つまり時制の移行を応用することが、我々にとって有利な考察をもたらすであろうとある程度予測してよい。

● 3つの標識と時制の移行

3つの標識

- ①「発話の方向」：語りにおける時制の方向を定める
- ②「浮き彫り付与」：物語の背景となる事態が前景を際立たせる
- ③「発話態度」：説明の時制と語りの時制に分類

時制の移行

・移行は「同質移行」と「異質移行」の二種類に分けられる。

例)「発話態度」の同質移行と異質移行

説明の時制（現在形・複合過去形・未来形）：発話時現在 t_0 と関連づけられる

語りの時制（単純過去形・半過去形・前過去形・大過去形・条件法）：発話時現在 t_0 から切り離された事態を表す

→同質移行：説明の時制から説明の時制または語りの時制から語りの時制へ移行すること

→異質移行：説明の時制から語りの時制へ、あるいはその逆への移行を表す。

✓ 同質移行は同種の時制間での、異質移行は異なる種類の時制間での移行を指す。

Weinrich (1982) は、同質移行がテキスト性を表すとしており、以下のように述べている。

同質移行が、所与のテキストにおける一貫性 **Konsistenz** を保証している。つまりそれがテキスト性である。それは、テキストをテキストとして構成するのに決定的な意味をもつものである。つまり一つのテキストについて、その意味を問うことを可能にするそもそも第一のものなのである。

→同質移行は秩序だったテキストの構成には必要不可欠なものである。

→異質移行は、テキスト性における役割はわずかであるとしているが、聞き手の情報量に変化をもたらす働きがあるとしている

・本発表では、Weinrich (1982) の示すこれら三つの標識は用いない。

①「発話態度」

本発表で扱う大過去形は全て説明の時制として分類される。

Benveniste (1966) と西村 (2015)：大過去形と半過去形は、説明の時制としても現れる。

→本発表もこの立場をとる.

「説明の時制」の大過去形：複合過去形に対して先行する事態を表す

「語りの時制」の大過去形：単純過去形に対して先行する事態を表す

→複合過去形基調の *Devenir* の大過去形は説明の時制に分類できる.

②「浮き彫付与」

半過去形と単純過去形のための標識なので本発表では特に扱わない.

③「発話の方向」

時制の表す時が語っている場面に対して「前」「同時」「後」を示すものであり、事態の前後関係については本発表で触れるところでもある.

→本発表では別の標識を用いるため、同質移行と異質移行の多用を避けるべく、これらの移行の問題に対しては必要な場合にのみ触れることにする.

● 本発表で扱う標識

・「中心場面」

「中心場面」の説明とこれを用いた移行については次章に譲る.

・「視点の位置」

フランス語の半過去形と英語の単純過去形の違いを分析する際に重要な要素.

→この二つの時制の視点の違いが大過去形と過去完了形の使用の違いに影響している.

→本発表で用いる視点とは話し手および聞き手の視点を指す.

2. 中心場面とテキスト構造

本章では、初めに中心場面と時制との関係、時制と視点の関わりについて説明し、次に実際に中心場面という概念のテキストにおける働きについて論じる.

2.1. 中心場面とは

● Declerck (1991)

・中心場面

時間の支配領域を定める場面を、その支配領域の中心場面 (**central situation**) と呼ぶ. 中心場面は、その支配領域内で、唯一、別の場面に時間的に従属していない場面である.

絶対時制：中心場面を決める時制 (単純過去形・現在完了形・現在形・未来形)

→「直接発話時に結び付けるという特徴」を持つ.

相対時制：中心場面に従属する場面を表す時制 (過去完了形や過去未来形など)

・Declerck (1991) の用例

*本発表では、過去完了形には太字、中心場面となる時制には下線、その他の時制にはイタリック体を施している.

(1) Jim said that he *was pleased* that Bill **had sent** him a letter and that he *would write* a reply as soon as possible. (Declerck 1991 : 119)

中心場面：単純過去形 *said*

中心場面との従属関係を表す時制：単純過去形 *was pleased*, 過去完了形 *had sent* そして過去未来形 *would write*

→単純過去形は絶対時制としても相対時制としても用いられる。

・図1：太枠の図形は中心場面，細い矢印は従属関係を表し，太い矢印は発話時点 t_0 から中心場面への視点の移動を表す。

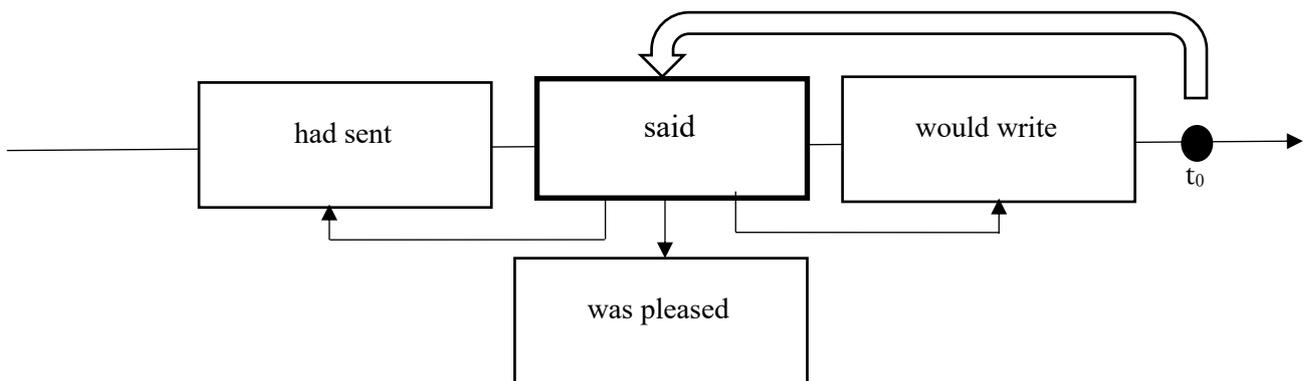


図1

・中心場面との従属関係を表す矢印の向き

→中心場面との前後関係も表している。テキストを捉える際に中心場面を考えることは、事態の前後関係をどこから捉えるかという「発話の方向」の問題にも対応している。

● フランス語の用例

*大過去形には太字，中心場面となる時制には下線，その他の時制にはイタリック体を施している。

(2) À Noël, cette année-là, nous avons pris l'avion pour Honolulu. Je **n'étais encore jamais allée** à Hawaii, mais j'*étais* sûre de m'y plaire. (Michelle Obama, *Devenir*)

中心場面：複合過去形 *avons pris* が表す事態（以下，中心場面 *avons pris*）

中心場面との従属関係を表す時制：大過去形 *n'étais encore jamais allée*, 半過去形 *étais*

→大過去形 *n'étais encore jamais allée* が表す事態：中心場面 *avons pris* に対して先行した事態

→半過去形 *étais* が表す事態：中心場面と同時期の事態

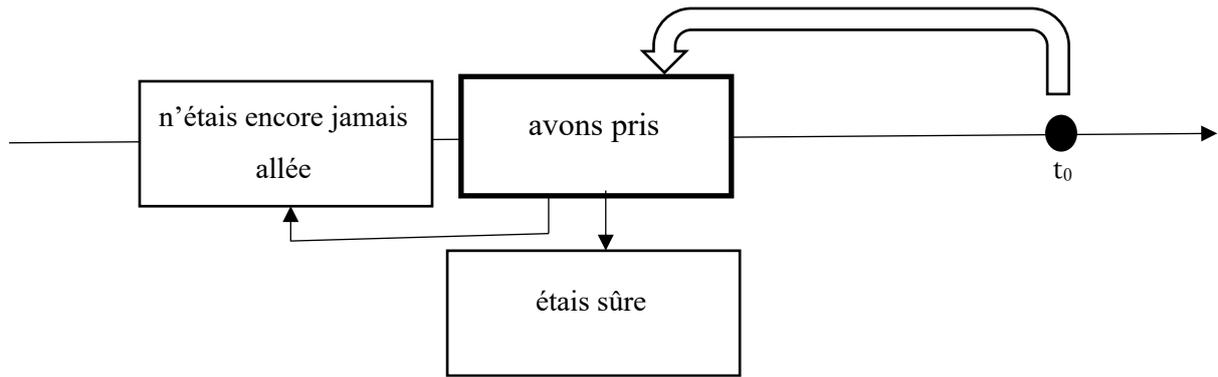


図 2

2.2. テキスト構造における中心場面の役割

この節では実際のテキストにあたって、中心場面を標識とした同質移行と異質移行を観察する。

(3) : 主人公のヒルデガルドが畏だとも知らずに富豪の秘書を名乗る男の面接を受けるために控え室で待っている場面から始まる。

(3) Elle *attendait*, comme chez le dentiste, que la porte s'ouvrit.

L'appartement 306 *comprenait* une suite au deuxième étage avec une vue sur la mer, le portier le lui **avait dit**. Dans sa chambre personnelle dont la vue reposante *donnait* sur les jardins, elle **avait trouvé**, la veille, en arrivant, une corbeille de fleurs accompagnée d'un mot de bienvenue.

Le soir, elle reçut un appel téléphonique l'avertissant que la personne qu'elle *devait* contacter la recevrait le lendemain mais qu'elle *pouvait* se reposer, sortir, aller danser, faire une promenade en mer, se rendre chez le coiffeur. Un compte en argent français lui *était* ouvert, elle n'*avait* qu'à se faire connaître à la réception.

On lui souhaita un agréable séjour et elle n'eut plus qu'à raccrocher sans connaître l'identité de son interlocuteur.

Hildegarde **avait donc été** se faire coiffer à l'institut de beauté de l'hôtel, **avait donné** ses robes à repasser à la femme de chambre et **avait acheté** des bas.

Le lendemain, au téléphone, une secrétaire prit courtoisement de ses nouvelles et lui fixa rendez-vous pour l'après-midi, quatre heures, à l'appartement 306.

(C. Arley, *La femme de paille*)

一段落目

半過去形 *attendait* : テキスト全体の中心場面（以下、中心場面 *attendait*）を表し³、視点は物語内部にある。

³ 半過去形は相対時制であるため、通常中心場面を設定することはできない。しかし、半過去形はしばしば「過去における現在」を表すと言われるように（東郷 2007）、ここの半過去形 *attendait* は物語世界に流れる時間における現在の事態を表しており、結果的に中心場面を設定していることになっている。

二段落目

大過去形 *avait dit, avait trouvé* : 直前の半過去形 *attendait* が表す事態よりも過去の事態を表している。

半過去形 *comprenait* : 間接話法。現在形が変化したものであるため、半過去形 *attendait* と同時ではない。

半過去形 *donnait* : 大過去形 *avait dit, avait trouvé* に対して広い意味で同時性を表す。

→この段落では、中心場面は常に半過去形 *attendait* にある。

✓ ある事態からある事態へ移る時、中心場面が維持される場合を同質移行として扱う。

三、四段落目

前文の時間副詞 *la veille* をきっかけに場面は前日の夜の場面に切り替わる。

単純過去形 *reçut* : 中心場面 *attendait* にとどまっていた視点はリセットされ、新たな中心場面が用意される。

→単純過去形は発話時点 t_0 から切り離された発話者の視点を介在しない時制であるため⁴、視点はその後に見える半過去形によって中心場面に視点が定位されることになる。

✓ 中心場面が維持されず新たな中心場面が立てられる場合を異質移行として扱う。

五段落目

大過去形 *avait été, avait donné, avait acheté* : その後の単純過去形 *prit* の表す事態が中心場面か？

→時を表す副詞 *Le lendemain* が冒頭にあることで、当該の大過去形と時間関係が分断されているため、後に続く単純過去形 *prit* と従属関係にあると見做すのは難しい。

・副詞 *donc*

これまでの内容を総括する談話的マーカーであり、この *donc* が呼び水となって、元の中心場面 *attendait* につながる出来事として大過去形 *avait été* が用いられている。

→後に現れる二つの大過去形 *avait donné, avait acheté* も従属関係にある半過去形 *attendait* に対して事態の前後関係を表す。

→中心場面が異質移行して、最初の中心場面に戻っている。

✓ この分析から、中心場面と時制の関係を以下のようにまとめることができる。

A) テキスト内において、時制が事態の前後関係（従属関係）を表すのは、同一の中心場面を共有している場合に限られる。

B) 中心場面を共有していない時制間では、両者の間に時間的前後関係（従属関係）を立てることはできない。

⁴ Benveniste (1966) は単純過去形について以下のように記述している。

Le temps fondamental est l'aoriste, qui est le temps de l'événement hors de la personne d'un narrateur.

→諸時制の選択はテキスト構造に依存して決まる.

3. 仏語版と英語原文のテキストの比較

本章では、まず実例の分析を行い、英語と比較しながらフランス語の大過去形のテキストにおける働きについて論じる.

3.1. 実例の分析

(4) : 毎週日曜日の午後に家族で訪れるオバマ夫人の父方の祖父母の話である.

(4) a. À en croire ma mère, j'*étais* le seul membre de la famille à tenir tête à Dandy quand il vociférait. Je l'ai fait régulièrement, (...).

« Arrête de t'en prendre à tout le monde, Dandy, lui *disais*-je. Ne sois pas méchant avec Grandma. » Et j'*ajoutais* souvent : « Et puis, qu'est-ce qui te met en colère comme ça ? »

La réponse à cette question *était* à la fois compliquée et simple. Dandy lui-même n'y *répondait* pas. Il *se contentait* de hausser les épaules d'un air grincheux et *se replongeait* dans son journal. De retour chez nous, mes parents *essayaient* de me donner l'explication que je *réclamais*.

Originaire du Low Country, la zone littorale de Caroline du Sud, Dandy **avait grandi** dans le port maritime humide de Georgetown où des milliers d'esclaves **avaient travaillé** autrefois dans de vastes plantations, récoltant le riz et l'indigo pour enrichir leurs propriétaires. Né en 1912, mon grand-père *était* petit-fils d'esclaves, fils d'un ouvrier de filature et l'aîné de dix enfants. Cet enfant vif et intelligent **avait été surnommé** « le professeur » et **avait très tôt nourri** l'ambition d'entrer un jour à l'université. Or il n'*était* pas seulement noir et pauvre ; il **avait également atteint** la majorité au moment de la Grande Récession. Après le lycée, Dandy **était allé** travailler dans une scierie, sachant que, s'il *restait* à Georgetown, il n'*aurait* strictement aucune possibilité d'ascension. Quand la scierie a mis la clé sous la porte, il a saisi sa chance comme beaucoup d'Afro-Américains de sa génération, et est parti vers le nord, pour Chicago, participant ainsi à ce qu'on *appellerait* la Grande Migration, qui a vu 6 millions de Noirs du Sud aller s'installer dans les grandes villes du Nord en l'espace de cinq décennies, pour fuir l'oppression raciale et chercher du travail dans l'industrie.

(Michelle Obama, *Devenir*)

b. According to my mother, I *was* the only person in the family to talk back to Dandy when he yelled. I did it regularly, (...).

“Quit shouting at everyone, Dandy,” I *d say*. Or, “Don't be mean to Grandma.” Often,

I'd add, "What's got you so mad anyway?"

The answer to that question *was* both complicated and simple. Dandy himself *would leave* it unanswered, shrugging cranking in response to my interference and returning to his newspaper. Back at home, though, my parents *would try* to explain.

Dandy *was* from the South Carolina Low Country, having grown up in the humid seaport of Georgetown, where thousands of slaves once labored on vast plantations, harvesting crops of rice and indigo and making their owners rich. My grandfather, born in 1912, *was* the grandson of slaves, the son of millworker, and the oldest of what *would be* ten children in his family. A quick-witted and intelligent kid, he'd **been nicknamed** "the Professor" and **set** his sights early on the idea of someday going to college. But not only *was* he Black and from a poor family, he also came of age during the Great Depression. After finishing high school, Dandy went to work at a lumber mill, knowing that if he *stayed* in Georgetown, his options *would never widen*. When the mill eventually closed, like many African Americans of his generation he *took* a chance and *moved* north to Chicago, joining what *became* known as the Great Migration, in which six million southern Blacks relocated to big northern cities over the course of five decades, fleeing racial oppression and chasing industrial jobs.

(Michelle Obama, *Becoming*)

● 伝語版

一段落目

複合過去形 *ai fait* : 視点が現在にあり、そこから回顧していることを表す。

→中心場面 *ai fait* となる。

→この事態は *régulièrement* とあることからわかるように何度も繰り返された事態である。この「祖父に繰り返し反抗した」ことを統括テーマ⁵として、以降ではその内容が詳述される。

二・三段落目

半過去形 (*disais, ajoutais, était, répondait, se contenait, replongeait, essayaient, réclamais*) : 当時何度も繰り返された事態

→どのように祖父に反抗したか、祖父にどんな質問を投げかけたか、家に帰って両親からどんな説明を受けたかなど時期的に中心場面 *ai fait* と重なる事態であるため、従属関係にあるといえる。

→半過去形の導入によって視点が現在から中心場面に移動しており、物語の内部から事態を眺めて

⁵ 「統括テーマ」という用語は、井上 (2001) の「統括主題」から着想を得たものである。ただし、井上 (2001) では本発表で扱うようなひとまとまりのテキストのテーマとして用いられておらず、次のように、最初にテーマとなる一文があり、これが「統括主題」となって次の文の「なくなっている」に関係しているという。詳しくは井上 (2001) を参照されたい。

(02) このところ世界各国で著名人が相次いでなくなっていますが, 日本では、現代を代表する作曲家の一人である武満徹氏がさる2月20日になくなっています。(井上 2001)

いる。

四段落目

Dandy の生い立ちの内容は両親が説明した内容の一部であり、ある種の自由間接話法のようになっている。

・時制の分布

前半：大過去形と半過去形

後半：複合過去形と条件法現在

・前半の大過去形：両親が説明した内容の一部でもあるため、半過去形 *essayaient de me donner l'explication* に対して先行した事態を表していると考えられる (図3)。

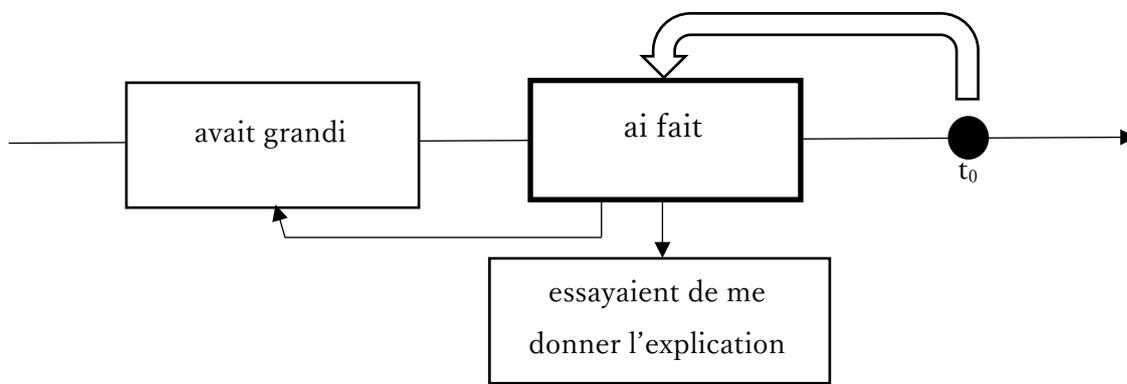


図3

→複合過去形 *a mis* が現れるまで、前景的な事柄には繰り返し大過去形が用いられる。

→視点は常に中心場面 *ai fait* にあり、そこから Dandy の過去を振り返っている。

・後半の複合過去形：語られている内容はもはや Dandy の個人の過去に留まるものではなく、アメリカ全体を巻き込む黒人の大移動という大きな出来事とリンクしている。

→現在と繋がりのある複合過去形を用いることになる。

✓ 仏語版：複合過去形 *a mis* までの全ての時制は複合過去形 *ai fait* を共通の中心場面として同質移行しており、統括テーマである「祖父に繰り返し反抗した」に従属している事態を表す。

● 英語原文：基本的に単純過去形が用いられている。

would + 動詞 (say, add, leave, try) : 単純過去形が用いられている事態 "I was the only person (...)" を中心場面とした従属関係を表している。

・“Dandy was from(...)”以降、フランス語で大過去形だったところが英語原文では、ほとんど単純過去形である。

→過去完了形の使用も見られるが、had nicknamed と set は、いずれも単純過去形 came に対して

先行している事態を表している⁶.

→祖父 **Dandy** の生い立ちを語るのに単純過去形が用いられているのは、新たに「祖父の生い立ち」という中止場面を立てているため。

✓ 英語版:「祖父の生い立ち」の語りに入ることによって、中心場面「祖父に唯一口答えをした私」が一段落ついたことになり、新たな中心場面を導入する (異質移行)。

(5) : オバマ元大統領の大統領選の投票日について語る冒頭の部分である。フランス語では大過去形の箇所が、英語原文では単純過去形が用いられている。

(5) a. *Quatre mois plus tard, le 4 novembre 2008, je glissai dans l'urne mon bulletin en faveur de Barack. Nous **étions arrivés** de bonne heure à notre bureau de vote, dans le gymnase de l'école élémentaire Beulah Shoesmith, à quelques rues de notre maison de Chicago. Nous **avions emmené** Sasha et Malia, habillées et prêtes pour l'école. Même le jour des élections –(...), il me *paraissait* préférable qu'elles aillent à l'école. (...)*

(...)

*Barack, comme toujours dans les grands moments de pression, était plus détendu que jamais. Visiblement serein, il a salué les assesseurs, pris son bulletin, et serré la main à tous ceux qu'il croisait. Ce qui, au fond, *se comprenait*. Après tout, les dés *étaient jetés*.*

(...)

Devant mon écran, j'ai fixé quelques secondes la petite bulle ovale en face du nom de mon mari à la république « président des États-Unis ».

(Michelle Obama, *Becoming*)

b. *Four months later, on November 4, 2008, I cast my vote for Barack. The two of us went early that morning to our polling place, which *was* in the gym at Beulah Shoesmith Elementary School, just a few blocks away from our house in Chicago. We brought Sasha and Malia along, both of them dressed and ready for school. Even on Election Day—maybe especially on Election Day—I *thought* school *would be* a good idea. (...)*

(...)

*Barack, as he always is on high-pressure days, *was* more easygoing than ever. He greeted the poll workers, picked up his ballot, and shook hands with anyone he encountered, appearing relaxed. It made sense, I guess. This whole endeavor *was* about to be out of his hands.*

(...)

That day, I stared for a few extra seconds at the little oblong bubble next to my husband's name for president of the United States. (...)

⁶ ただし set に関しては単純過去の可能性もある。

● 仏語版

一段落目

冒頭の文には単純過去形が用いられている。

→ *Devenir* は複合過去形基調の文であるが、オバマ元大統領が当選を果たすという歴史的な日の印象的な自分の行為を単純過去形で表している。

中心場面：日付 le 4 novembre 2008

単純過去形 *glissai*：本来ならば単独で中心場面を設定できる絶対時制であるが、ここでは日付に従属している。

→この単純過去形は後続するテキストで詳述されることになる統括テーマとなっている。単純過去形に続く大過去形 *étions arrivés, avions emmené* は中心場面 le 4 novembre 2008 に対して従属関係にある先行した事態を表す。

→視点は中心場面にあり、そこから捉えられる事態を大過去形で表している。

半過去形 *paraissait*：大過去形 *avons emmené* との同時性を表す。

二段落目

投票所についてからの出来事には複合過去形が用いられている。

複合過去形 *a salué, pris, serré*：絶対時制である複合過去形は新たな場面を導入しうるが、ここでは統括テーマの単純過去形 *glissai* の詳述をしている。

→単純過去形と内包関係にある。統括テーマは単純過去 *glissai* のままである。

半過去形 *était, se comprenait, étaient jetés*：それぞれ複合過去形に対する同時性を表す。

三段落目

複合過去形 *ai fixé*：単純過去形との内包関係は無くなっている。

→中心場面は複合過去形 *ai fixé* が表す事態「家に帰ってテレビで開票速報を見ている場面」に異質移行している。

→場所を表す副詞句 *devant mon écran* が冒頭にくることで場面の切り替えが行われている。

✓ 仏語版のテキスト構造は単純過去形で統括テーマを設定し、その詳述を大過去形と複合過去形が担っている。

→大過去形が表す事態：「投票所に着く前」の出来事

複合過去形で表されている事態：「投票所に着いた後」の出来事

→投票所に着くまでの背景的な出来事を大過去形で表している。

● 英語原文

フランス語とは異なり冒頭の一文を統括テーマとし、続く事態と従属関係に置くというテキスト構造は取っていない。

→最初の時間副詞 on November 4, 2008 で場面設定をした後、それぞれを独立した一連の出来事として表すために常に単純過去形が用いられている。

✓ 英語では、仏語版のように投票所に「到着する前」を背景的な事態として区別せず、すべて同レベルの事態として扱っている。

(6) : オバマ夫人の両親の教育にまつわる一つのエピソードを紹介する場面である (Craig はオバマ夫人の兄である)。厳密には先行しているとは言えない事態についてフランス語では大過去形で、英語では単純過去形が用いられている。

(6) a. Ils n'ont jamais cherché à édulcorer ce qu'ils considéraient comme les dures réalités de la vie. Un été, par exemple, Craig **avait reçu** un nouveau vélo qu'il **avait enfourché** pour aller au lac Michigan, à l'est, sur le sentier pavé qui longeait Rainbow Beach, où l'on *pouvait* sentir la brise qui *venait* de l'eau. Il **n'avait pas tardé** à se faire arrêter par un agent de police qui **l'avait accusé** de vol, n'envisageant pas une seconde qu'un jeune Noir ait pu se procurer un vélo neuf par des moyens honnêtes (l'agent, lui-même afro-américain, s'est ensuite fait passer un sacré savon par ma mère, qui l'a obligé à présenter ses excuses à Craig). Cet incident, nous ont expliqué mes parents, était injuste, mais malheureusement fréquent. La couleur de notre peau nous *rendait* vulnérables. Nous *devrions* faire avec durant toute notre vie.

(Michelle Obama, *Devenir*)

b. They also never sugarcoated what they took to be the harder truths about life. Craig, for example, got a new bike one summer and rode it east to Lake Michigan, to the paved pathway along Rainbow Beach, where you *could feel* the breeze off the water. He **ɔ̃ been promptly picked** up by a police officer who *accused* him of stealing to, unwilling to accept that a young Black boy *would have come* across a new bike in an honest way. (The officer, an African American man himself, ultimately got a brutal tongue-lashing from my mother, who made him apologize to Craig.) What **had happened**, my parents told us, *was* unjust but also unfortunately common. The color of our skin made us vulnerable. It *was* a thing we'd *always have* to navigate.

(Michelle Obama, *Becoming*)

● 仏語版

複合過去形 n'ont jamais cherché à édulcorer : 発話時点 t_0 から回顧的に捉えられた事態であり、中心場面となる。

→このあと、「両親から与えられた教育」にまつわるエピソードが一つ取り上げられるため、中心場面 n'ont jamais cherché à édulcorer はこのテキストにおいて統括テーマとなる。

- ・エピソードの内容 : 兄のCraigが自転車を盗んだと疑われる話

複合過去形ont expliquéが現れるまでは、ほとんど全て大過去形で語られる。

→複合過去形s'est ensuite fait, a obligé：統括テーマに直接関係する事態ではない副次的な情報であるため、統括テーマの事態として含まれていない。

→一連の大過去形：統括テーマである複合過去形n'ont jamais cherché à éduquerを中心場面とし、そのうちの一つのエピソードにおける一連の出来事を詳述している。

✓ 発話時点 t_0 から捉えた事態を複合過去形で表し、そこに視点を置いて「兄が警官に疑われる」エピソードを物語の内側から眺めている。

→統括テーマである複合過去形n'ont jamais cherché à éduquerが表す事態との従属関係が維持されている。

・図4：これまでと違って統括テーマが大過去形で表す事態を内包したものとなっている。

→大過去形で語られるエピソードは統括テーマとなる中心場面n'ont jamais cherché à éduquerに含まれるエピソードであるため時間的な前後関係に還元することができない。

→大過去形がテキストにおいて出来事の前後関係を超えて、中心場面との従属関係を時制形式で表しうることを示唆しているのではないか⁷。

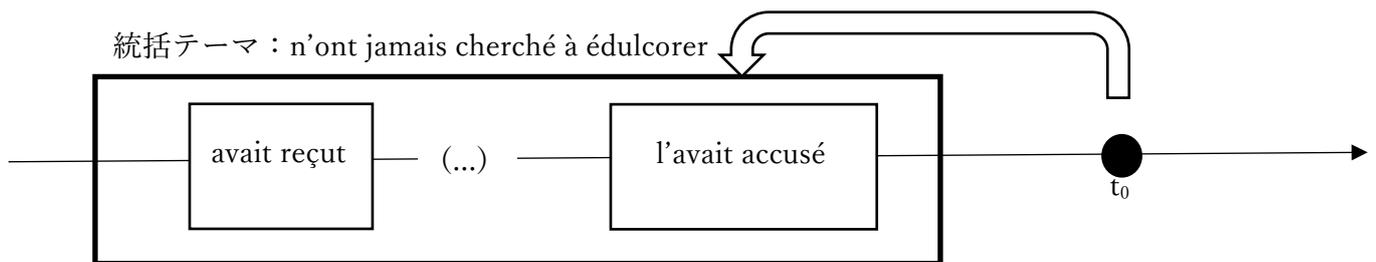


図4

● 英語原文

過去完了形had been promptly picked以外は単純過去形であり、仏語版とは異なり発話時現在 t_0 から「兄が警官に疑われる」エピソードを振り返っており、その都度新たな中心場面が立てられる。

→for exampleによって二つの文とその後に続く一連の事態により「両親に与えられた教育」をテーマにしたテキストであることは明らかであるため、わざわざ過去完了形を用いる必要はない。

→括弧の後の過去完了形had happened：主節のtoldに対して先行した事態を表している。

(7)：1960年代後半の出来事を描くのに大過去形が用いられている例である。これらの大過去形のほとんどは英語では単純過去形が用いられている。

(7) a. C'était la fin des années 1960 dans le South Side de Chicago. Les Cubs n'étaient pas

⁷ 仮に一連の出来事が大過去形ではなく複合過去形で表されていたなら、英語のように文脈から「親に与えられた教育」をテーマにしたテキストであることがわかるが、中心場面は異質移行し、複合過去形 n'ont jamais cherché à éduquer は中心場面ではなくなる。

mauvais, mais ils n'*avaient* rien d'exceptionnel non plus. (...) Hors des stades de base-ball, l'Amérique *était* en plein changement – un changement aussi massif qu'incertain. Les Kennedy **étaient morts**. Martin Luther King **avait été tué** sur un balcon de Memphis, un assassinat qui **avait provoqué** des émeutes dans tout le pays, y compris à Chicago. À la convention nationale démocrate de 1968, le sang **avait coulé** quand la police **s'en était prise** à coups de matraque et de gaz lacrymogène aux manifestants qui *protestaient* contre la guerre du Vietnam à Grant Park, à une quinzaine de kilomètres de chez nous.

(Michelle Obama, *Devenir*)

b. This *was* the tail end of the 1960s on the South Side of Chicago. The Cubs *weren't* bad, but they *weren't* great, either. (...) Outside the ballparks, America *was* in the midst of a massive and uncertain shift. The Kennedys *were* dead. Martin Luther King Jr. **had been killed** standing on a balcony in Memphis, *setting off* riots across the country, including in Chicago. The 1968 Democratic National Convention turned bloody as police went after Vietnam War protesters with batons and tear gas in Grant Park, about nine miles north of where we *lived*. (Michelle Obama, *Becoming*)

- 仏語版

中心場面： " *C'était la fin des années 1960* (...) l'Amérique *était* en plein changement" の日付と半過去形が設定する中心場面（以下，中心場面*la fin des années 1960*）。

→以降1960年代後半に起こった出来事が詳述される。

→この中心場面はこの段落における統括テーマになっている。

大過去形：ケネディ兄弟の死亡を含めた出来事全てに用いられている。

→中心場面*la fin des années 1960*に視点を置いて，そこから過去の事態を捉えている。これらの大過去形も，中心場面を維持する同質移行である。

・図5：冒頭の "*C'était la fin des années 1960* (...) l'Amérique *était* en plein changement" までにすでに終えた事態と表されているので，いずれも中心場面よりも前の事態として左に位置する。

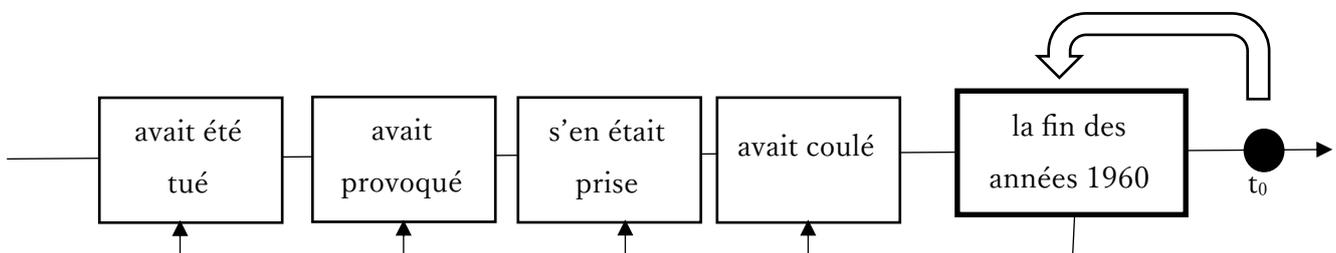


図 5

- 英語原文

過去完了形 *had been killed*：キング牧師が殺害されたという出来事は分詞構文 *setting off riots* で表

された出来事に対して先行している。

単純過去形were：状態動詞で動的な事態を表しているわけではないため、中心場面the tale end of the 1960sに従属している。

単純過去形turned, went：動的な事態を表し、それぞれ新たな中心場面を導入している。

→これまでと同様に中心場面は維持されておらず、単純過去形の出現に従ってその都度異質移行し、新しい中心場面を設定している。

✓ 3.1.のまとめ

・フランス語の大過去形：中心場面に対して先行した事態を表すという機能が、テキストにおいては統括テーマとなる中心場面を維持したまま、そのテーマに関わる出来事を詳述する働きがある。

・英語の過去完了形：フランス語のように統括テーマに従属する形で連続して使われることがなく、中心場面に対して先行することを単文レベルで表す。

3.2. 大過去形と過去完了形の視点の違い

?なぜフランス語では統括テーマに関わる出来事を大過去形によって詳述できるのか。

● フランス語と英語の視点を置くことのできる時制の違い。

東郷 (2010) によれば、語りにおいて話し手が視点を置くことができるのは未完了時制に限られる。

・フランス語：未完了時制は現在形と半過去形の二つのみ。

半過去形：過去の中心場面となる時点に視点を移動させてそこに視点を留まらせることができる。

→過去の事態を中心場面に従属させた形で語るものが比較的容易である。

→中心場面以前の出来事を語る場合、連続して大過去形を使用する頻度が多くなる。

→大過去形を用いることで統括テーマとなる中心場面を維持したまま、それに関わる事態の詳述をすることが可能になる。

・英語：半過去形に相当するような、未完了過去の時制が存在せず、未完了かどうかは動詞の語彙的アスペクトに委ねられる。

前節から述べてきたように基本的には発話時点 t_0 から回顧的に事態を捉える時制である。

→中心場面となる過去の時点に視点を留まらせて、振り返って語るということが起こりにくい。

→統括テーマの詳述となりうる事態でも次々に新しい中心場面を設定し継起的に事態を語ることになる。

→英語の過去完了形はフランス語の大過去形に比べてテキスト機能が乏しい。

6. おわりに

◇ 本発表の目的

テキスト構造の観点からフランス語の大過去形の本質的な機能を明らかにすること

→Michelle Obama の自伝の仏語版 *Devenir* と英語原文 *Becoming* をコーパスとし、主にフランス語の大過去形が連続して現れるテキストを分析対象とし、以下のことが明らかになった。

✓ 大過去形は統括テーマに関わる出来事を詳述する働きがある。

統括テーマを詳述するために、大過去形が用いられるのは次のような理由のためである。

A) フランス語の時制には過去の時点に視点を留めることができる未完了時制の半過去形がある。

B) 過去の時点に視点を留める強さは中心場面の維持する強さになる。

→中心場면을維持する強さが統括テーマに関連する事態を大過去形で詳述することを可能にしている。

◇ 今後の課題

この大過去形のテキストにおける振る舞いが、(6) のように中心場面との前後関係が明確ではなくとも、統括テーマとの事態の従属関係を明示するために用いられる可能性があることを示唆した。

→大過去形がテキスト構造において、統括テーマとなる中心場面に対して前後関係以外の関係を表しうるのかという問題は、今後の課題としたい。

参考文献

井上優 (2001) 「現代日本語の『タ』—— 主文末の『…タ』の意味について ——」 つくば言語文化フォーラム編『「た」の言語学』ひつじ書房。

井元秀剛 (2010) 『メンタルスペース理論による日仏英時制研究』ひつじ書房。

小熊和郎 (2018) 「フランス語大過去Ⅲ — アガサ・クリスティ『火曜クラブ』英・西・伊・伯・葡語との対照 —」 山村ひろみ (編) 「現代ロマンス諸語におけるテンス・アスペクトの対照研究」 科研費報告書 CDR, 九州大学。

柏野健次 (1999) 『テンスとアスペクトの語法』開拓社。

千葉修司 (2018) 『英語の時制の一致 時制の一致と「仮定法の伝播」』開拓社。

東郷雄二 (2007) 「Je t'attendais. 型半過去再考」『フランス語学研究』41, 16-30.

東郷雄二 (2010) 「談話情報管理から見た時制—単純過去と半過去—」『フランス語学研究』44, 15-31.

東郷雄二 (2011) 『中級フランス語 あらわす文法』白水社。

西村淳子 (2015) 『フランス語時制論 発話行為のテキスト言語学』春風社。

練尾毅 (2008) 「フランス語の大過去形と英語の過去完了形」『アカデミア』文学・語学編, 83, 175-191.

浜田 秀 (2001) 「物語の四層構造」『認知科学』8-4, 319-326.

春木仁孝 (2000) 「現代フランス語の大過去とテンス・アスペクト」『言語文化研究』26 (大阪大学大学院人文学研究科), 179-197.

- 春木仁孝 (2007) 「スキヤニング操作と単純過去」『言語文化研究』33 (大阪大学大学院言語文化研究科), 81-101.
- 春木仁孝 (2014) 「フランス語の時制と認知モード 時間的先行性を表わさない大過去を中心に」春木仁孝・東郷雄二編『フランス語学の最前線2』ひつじ書房, 1-44.
- 渡邊淳也 (2018) 「フランス語大過去形の特徴的用法について」『筑波大学フランス語・フランス文学論集』33 (筑波大学), 81-113.
- Apothéloz, Denis & Bernard Combettes (2016), "La Variation plus-que-parfait ~ passé simple dans les analepses narrative", *Variation, invariant et plasticité langagière*, Besançon, Presses Universitaires de Franche-Comté, 53-66.
- Benveniste, É. (1966), *Problèmes de linguistique générale* 1, Paris, Gallimard. (岸本通夫他訳 (1983) 『一般言語学の諸問題』みすず書房)
- Combettes, B. (2008), "Cohérence discursive et faits de langue : le cas du plus-que-parfait", *Verbum* 30-2/3, 181-197.
- Declerck, R. (1991), *A Comprehensive Descriptive Grammar of English*, Tokyo, Kaitakusha Co. (安井稔訳 (1995) 『現代英文法総論』開拓社)
- Weinrich, H. (1971), *Temps*, Stuttgart Besprochene und erzählte, Stuttgart, W. Kolhammer GmbH. (脇坂豊他訳 (1982) 『時制論 文学テキストの分析』紀伊國屋書店)
- Weinrich, H. (1976), *Sprache in texten*, Stuttgart, Klett Verlag. (脇坂豊他訳 (1984) 『言語とテキスト』紀伊國屋書店)